

真念庵境内の試掘調査が終了する！

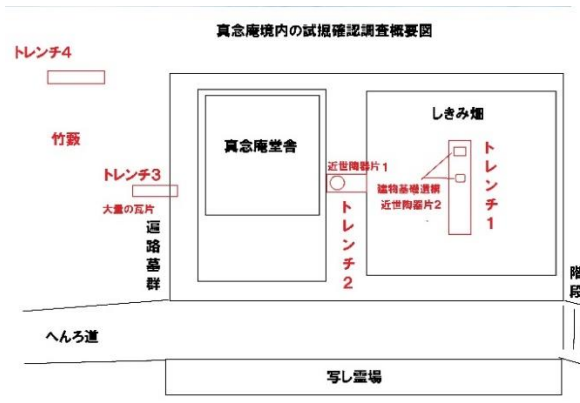
令和5年度・国史跡指定をめざして

先月25日に調査開始がされる予定であったが、雨天のため順延となり、26(火)～28日(木)の3日間にわたり、市内市野瀬地区に所在する真念庵境内での試掘調査が土佐清水市教育委員会によって実施された。

調査は、高知県教育委員会事務局文化財課の埋蔵文化財担当・下村裕チーフが、土佐清水市教育長の依頼により調査の指導に当たり、生涯学習課の池内正樹課長補佐と田村公利市史編さん室長がその指揮を取った。調査には、このほか、生涯学習課職員吉本工心が指揮の補助を、土佐清水市文化財審議会の東近伸会長、同文化財審議委員で土佐清水市郷土史同好会の武藤清会長、あしずり遍路道保存会の弘田之彦会長の3名が作業員として参加した。調査の日程と概要は下記のとおり。

—調査の流れ—

- *1日目⇒ ①堂舎正面に向かって右側のシキミ畑にトレンチ1(1m×4m)を設定して小型重機により掘削。
②堂舎正面に向かって右側のシキミ畑と堂舎基礎との間にトレンチ2(約0.6m×2m)を設定して手掘りにより掘削。
③堂舎正面に向かって左側の斜面にトレンチ3(大凡1m×2.5m)を設定して重機により掘削。
- *2日目⇒ ①～③の掘削図面作成作業、土壌堆積状況(層位の確認)、出土遺物の整理
④堂舎正面に向かって左側の一段高い竹林にトレンチ4(大凡1m×2m)を設定して掘削。
- *3日目⇒ ④の掘削図面作成作業、①～④の調査区写真撮影。
①～④の埋め戻し作業、ネジリ等の道具の洗浄。
午後から石造物追加調査、倒れている丁石の立て直し。



〈調査結果〉

トレンチ 1～4 まで 4 か所の調査区を設定し、重機により地層を掘り下げて調査を実施したが、遺構が検出されたのはトレンチ 1 の調査区のみ。建物礎石抜き出し跡と見られる遺構 2 面であった。残念なことに昭和 30 年代に存在していた堂舎兼宿舎であった平屋の建物の礎石であったのか、それともそれ以前の近世の建物遺構なのか、その判断が難しいところである。トレンチ 1～2 では、近世の陶器片 3 点の埋蔵文化財が出土した。

トレンチ 4 の竹藪は、土壤に小石がほとんど無く、耕作地として利用されていた畑であったと思われる。地元の 90 歳の方にお話をうかがいすると、昭和 30 年代には麦や芋が植えられていたという。おそらく近世段階においも同様に食糧を調達するための畑として利用されていたものと思われる。



トレンチ 1 の調査の様子

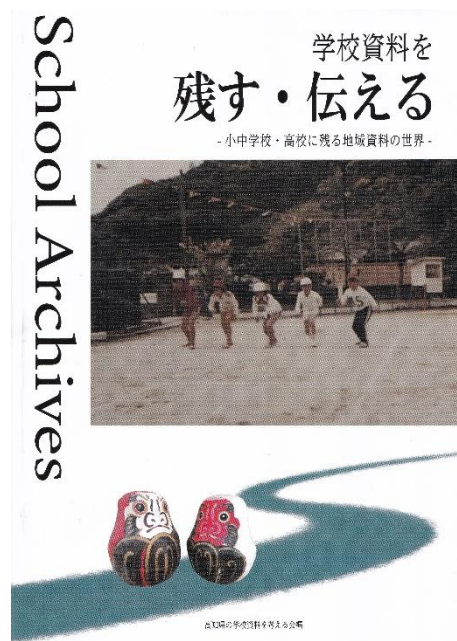


トレンチ 3 を調査する下村チーフ

高知県の学校資料を考える会編『学校資料を残す・伝える—小中学校・高校に残る地域資料— School Archives』が発刊される

高知県の学校資料を考える会編『学校資料を残す・伝える—小中学校・高校に残る地域資料の世界— School Archives』が発刊された。第 1 章「学校資料ってなんだろう」、第 2 章「高知県の学校資料」、第 3 章「学校資料を残す・伝える」の 3 章構成。第 2 章は 53 件の学校資料の紹介があり、このうち 45/53 件がなんと土佐清水市立旧大津小学校の学校資料の紹介である。

昨年度から旧大津小学校の学校日誌等の学校資料を中浜小学校 2 階に移動し、学校資料のリストを作成して保存し、これが本年度秋に完成した。高知県の学校資料を考える会(目良裕昭代表)や地元土佐清水市郷土史同好会(武藤清会長)らの協力を得てこれらをすべて完了することができた。



今回の発刊では、高知大学の人文学部小幡尚教授、教育学部望月良親講師。高知城博の渡部淳館長、高木学芸員。自由民権記念館の筒井秀一館長、濱田実侑学芸員等の大学教員・学芸員や小中学校事務職員等 19 名が、大津小・中川内小中・興津中・追手前高等の学校資料についてその紹介を各 1 頁にまとめて執筆した。

これを楠瀬慶太（高知新聞記者）、土居喜一郎（高知国際中学校事務職員）、目良裕昭（枝川小学校事務職員）、石畑匡基（歴史民俗資料館学芸員）、田村公利（土佐清水市史編さん室職員）が編集した。

高知県の学校資料を考える会では、この学校資料を近代以降の学校教育史や地域史を研究していくうえで大変貴重な資料と考え、学校の統廃合が進行するなかで廃棄されるケースが多く、これに一石を投じ、警鐘を鳴らしている。

目良代表、楠瀬前事務局長たちの資料保存の熱い思いに触れ、大津小学校の資料保存になんとか漕ぎ着けた。その熱い思いは、まさに燎原の火の如く、県内関係者に確実に伝播しつつある。この流れに土佐清水市教育委員会も、多くの方々のご尽力により乗ることができた。

【編集後記】

今井悟編集委員からメールが入り、近日中に 1 次原稿データを DVD に焼き、送付する旨の連絡があった。島根県立三瓶自然館の展示企画が忙しくあちこちに出張して忙しい日々を過しているようだ。「学位論文の提出ではないので、11 月過ぎてもよいので、無理をせず、しっかりした内容の物を提出してほしい」との旨を返信した。細かい内容はゲラになっても訂正はできる。しかし、一度提出すれば大きな内容変更は難しくなる。そのことを頭に置いて 1 次原稿の提出を編集委員の皆様にはお願いしたいと思う。

さて、気がつけば早いもので秋から冬に、コロナに加えてインフルエンザが、まん延する季節となった。編集委員会各位の皆さんもどうか、健康にはご留意いただきたい。まずは、健康であり、身体が大切である。大切なかけがえのない皆様なのだから。（田村）

執筆者

伊藤嘉高	1984 年生まれ。高知海南史学会会員。
小幡尚	1968 年生まれ。高知大学人文社会科学系人文社会科学部門教授。
影山千夏	1968 年生まれ。特定非営利活動法人地域文化計画理事。
楠瀬慶太	1984 年生まれ。高知新聞社記者。※編集担当
汲田美砂	1996 年生まれ。高知市立自由民権記念館学芸員。
石畑匡基	1988 年生まれ。高知県立歴史民俗資料館学芸員。※編集担当
笹島康仁	1990 年生まれ。記者、フォトグラファー。元高知新聞社記者。
高木翔太	1987 年生まれ。高知県立高知城歴史博物館学芸員。※編集担当
田村公利	1965 年生まれ。土佐清水市史編さん室長。※編集担当
土居喜一郎	1988 年生まれ。高知県立高知国際中学校主幹。※編集担当
筒井秀一	1956 年生まれ。高知市立自由民権記念館長。
永野勇太	1998 年生まれ。高知大学教育学部卒業。
橋本達広	1972 年生まれ。高知中学高等学校教諭。
濱田実侑	1991 年生まれ。高知市立自由民権記念館学芸員。
目良裕昭	1976 年生まれ。いの町立枝川小学校主幹。※編集担当
水松啓太	1998 年生まれ。高知県立高知城歴史博物館学芸員。
望月良親	1981 年生まれ。高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部部門講師。
谷地森秀二	1967 年生まれ。越知町立横倉山自然の森博物館学芸員。
渡部淳	1962 年生まれ。高知県立高知城歴史博物館長。